

---

# 不思議な本屋で

棒人間

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

不思議な本屋で

### 【Nコード】

N1064Z

### 【作者名】

棒人間

### 【あらすじ】

主人公が本屋を見つけたみたいです。

其処に入って行くと…？

来店（前書き）

こんな本屋有ったら良いのに。と書いて書いてみました。

良かったら。

## 来店

薄暗くランタン型の電灯がほの暗く光る店内。

天井まで届きそうな程高い本棚がひしめく。

それでも本棚に乗せきれず直接通路の至る所に本が積み上げられている。

少し埃っぽい空気に古い本の匂いが漂いなんともいえない気分。

上手く形容出来ない自分のボキャブラリーの無さにがっかりした。

最近見つけた本屋さん。

一見したら魔法使いが奥にいたりしてもおかしくない独特の雰囲気  
が気に入ったのだ。

順番に本の背表紙を眺めて行く。

特に何か探している訳じゃないけどなんか眺めて行くと満足感が湧いてくる。

途中で煤けた赤色の大きな本があった。

知ってた本じゃないけど頭が1人だけ飛び出っていたのでなんとなく  
目についた。

出る杭は打たれる。

人差し指で引き抜こうとしたが本がぎゅうぎゅうにきっちり仕舞わ  
れていたので取り出せない。

えいつ、と指を3本に増やして引き抜く。

本と一緒に大量の埃まで引き出された。

頭の埃を払い、本の表紙を眺める。

悪魔が1体描かれていて、悪魔の頭の付近に英語と小さいカタカナ  
でタイトルが綴られている。

一瞬召喚陣や魔法薬な想像を頭の中で描いたが中身は魔法と悪魔の冒険物のお話だった。

少し読み進めてみるととても引き込まれて時間を忘れてしまった。

「…ファンタジーな本をお探しですか？」

不意に横から声が掛かったのでびっくりした。

ここの雰囲気通り魔法使いみたいな姿の…って事は無くて背が高く少し細身の青年が立っていた。

身体が反射的に手に持っている本を胸当たりに両手で持ち盾の様にしていたのに気付いたのでおろす。

「あ！いえ違います！ただふらつと立ち読みでもしようかなつと。」

青年はにこりと笑い「そうでしたか。お邪魔して申し訳ありません。ごゆっくりどうぞ。」と謝ってから本棚の最上段の本を一冊抜き取り奥に戻って行った。

もしかしてここの店員さん？

時計を確認してそろそろここを出ることにした。

この本を買いたいけど奥に行けば良いのかな？

狭い通路の本の小山を越えて本棚の端まで辿りつく。

さっきの青年がレジの奥で椅子に座って本を読んでいた。

なんとなくぼーっとしていたら青年の方から話しかけられた。

「あ、さっきの方ですね。どうぞこちらに。」

そう言っただけで青年はレジの台に載せられていた本をどかし、スペースを作った。

「600円になります。」

定価2400円なのに何故だろう。

確かめたらこの本は古本の棚の本だったらしい。

「珍しいかも知れませんがあちらが新品、残りが全て古本です。」

そんなシステムで経営してたらやりにくい気がするけど。

商品を受け取り狭い通路を通り外に出た。

また今度ここに来よう。

そう考え帰路についた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1064z/>

---

不思議な本屋で

2011年12月3日23時45分発行